

平成27年度GSCOシラバス

【科目区分:日付】生物オリンピック:10/25(日)1,2,3限	【科目 No】307
【科目名】生態学	【講師】石井規雄
【科目名(英語名)】Ecology	国際生物学オリンピック日本委員会
【授業の目的】 <1限> ここでは、この地域のバイオームを理解する事を目的とし、生物基礎を履修している生徒のある程度は、既に学習している内容である。従って、より身近な内容を中心に講義を行う。 <2, 3限> この地域の低地に広がるバイオームである常緑広葉樹林帯を理解する事を目的とし、野外観察を行って、この地域の自然環境を知り、また環境の評価を行い、身の回りの生物を観察する事で、生物からの様々なメッセージを知る。	
【授業内容】 <1限> 岡山県の標高 700m くらいまでは、照葉樹林帯が優占している。しかし、自然林は殆ど残っていない。照葉樹林帯の特性を理解し、他のバイオームとの違いについても解説する。特に植生観察を午後行うので、植物の特徴をどう捕らえるかを解説する。更に世界のバイオームも含めて説明をし、それぞれの特徴を学習する。植物を中心にするのは、植物が生産者であり、特に樹木では短時間に変化しないからである。また、照葉樹林を扱うのは、日本では最も人口の多い場所が相当するからで、日本の多くの文化は照葉樹林帯で発達しているからである。 <2, 3限> 植物名を知る事は、環境を理解する上に大切である。例えば、帰化生物を例にしても、近年非常に多くの生物が日本に侵入している。似ていても在来種か外来種では環境評価では結果が異なる。明治維新以降侵入した生物が帰化生物ではあるが、遥か昔に侵入した生物が在来種と間違われる事も多い。環境を正しく理解するには、多くの知識を持つ事が大切である。野外観察を実施する事で、特に樹木の構成を知る事で、様々な自然からのメッセージに気づく事があると思う。しかし、植物種を調べるだけでは環境を正しく理解した事にはならないことも、実例が見られれば紹介したい。	
【テキスト】 <1限>使用しないが教科書があると良い <2, 3限>使用しない	
【参考図書】 <1限>図説等の副教材があると良い <2, 3限>あれば図鑑類	